



昭和大学病院

検索

昭和大学病院附属東病院

検索

発行 昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院
発行責任者 昭和大学病院長 板橋 家頭夫
編集責任者 広報委員長 中村 清 吾
〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8
TEL : 03-3784-8000 (代表)

2年間の初期臨床研修を通して

初期臨床研修医 2年次代表 佐藤 義仁

ベッドサイドで遭遇する難問や患者さんからの質問の答えを出そうと奔走しているうちに、ここ昭和大学病院での初期臨床研修が終わろうとしています。医師になれた事の喜びと、社会人としての不安で迎えた2年前の4月が、つい最近のように思えます。

入職してすぐの頃は、日常業務を覚えるので精一杯でした。また、「先生」と呼ばれる事に対する違和感と、それに応えられる知識を身につけなければいけないのだという責任も同時に感じました。あれから2年近くが経ち、日常業務はある程度こなせるようになり、「先生」と呼ばれることに少しは慣れましたが、あの日から自分自身どのような知識を得、何を人に与えることができたのでしょうか。

この2年間は学ぶことの連続でした。その学んだことのほとんどは、本ではなく患者さんから学んだことです。「医師の一番の先生は患者さんだ。」とよく言われますが、まさにその通りだと思います。医師国家試験では答えは一つしかありませんが、実臨床では答えが一つとは限りません。患者さんに応じて、ベストな答えを探していくことの連続でした。ある上級医の先生から「答えは一つとは限らないが、色々悩み、調べ、ベストな答えを出すのが君の仕事だ。」と言われたことは今も心に響いています。

一人一人の患者さんについてベストな答えを出し続けることが経験となり、次の患者さんの為になるのだと日々感じています。

振り返ってみて、この2年間の初期臨床研修は多くの方に支えていただきました。日常診療や医師としての心構えを指導していただいた様々な科の諸先生、右も左もわからぬ研修医に対して、時に優しく時に厳しく接して下さったメディカルスタッフの皆様、愚痴を言い合うこともありましたが拙い医療知識について語り刺激があった同期、様々な人と関わる2年間でした。皆様、本当にありがとうございました。ここ昭和大学病院で初期臨床研修を行うことができ、本当によかったと思っています。

来年からは昭和大学病院消化器一般外科で働く予定です。この2年間で学んだこと・想いを忘れずに精進していきたいと思います。まだまだ未熟者であり、多々ご迷惑おかけすると思いますが、厳しく時に優しく指導していただければ幸いです。



診療体制

当科では、糖尿病や脂質異常症などの代謝性疾患と下垂体、甲状腺、副腎などの機能異常を伴う内分泌疾患を中心に診療をおこなっています。外来診療では糖尿病や内分泌疾患診療のほか、各種の負荷試験や持続血糖測定、血管内皮機能検査などの検査を充実させています。入院では通常の糖尿病教育入院以外にも糖尿病ケトアシドーシスや甲状腺クリーゼなどの救急疾患、低ナトリウム血症などの電解質異常、糖尿病合併症の治療やバセドウ病のアイソトープ治療など幅広く診療をおこなっています。

周術期の厳格な血糖管理を行うための強化インスリン療法を主体としたインスリン治療だけでなく、患者さんのライフスタイルをできるだけ損なわない糖尿病治療をモットーに患者さん本位の、より患者さんに近づいた医療を追及しています。また、質の高い血糖変動を実現するため持続血糖測定や持続皮下インスリン注入療法を組み合わせるなどの最新の糖尿病治療を導入し、より繊細な血糖コントロールが可能となりました。

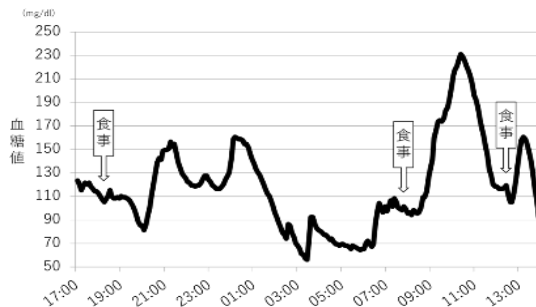
特徴的な治療領域

• 持続血糖モニター Continuous Glucose Monitor (CGM)

CGM を使用することで血糖値を 24 時間連続して測定することができます。これまで分からなかった隠れた食後高血糖や夜間低血糖などの問題点がわかるようになり、より患者さんに優しい治療が可能となりました。



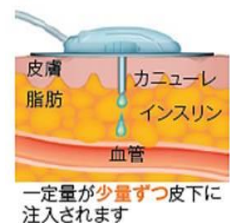
実際の CGM パターン



• 持続皮下インスリン注入療法 (CSII)

CSII は 24 時間連続的にインスリンを注入するポンプを皮下に挿入する治療法です。時間帯によって基礎インスリンの量を変更するなどの複雑な血糖コントロールが可能になりました。また、食事の際の追加インスリンはボタン操作ひとつで可能なため、毎回皮下注射の準備をしなくて済むようになり、頻回インスリン注射の煩わしさを軽減することもできます。

インスリンポンプ療法



糖尿病・代謝・内分泌内科 診療科長：平野 勉 (Hirano Tsutomu)

趣味：フルーツ演奏

糖尿病外来では合併症の早期発見や進展予防を目指した診療を心がけています。内分泌外来では画像検査や負荷試験、サンプリング検査などを積極的に行い、正確な診断、治療を心がけ、医局員一同診療にあたっています。近隣の医療機関の先生方から血糖コントロールの依頼も多く、必要に応じてインスリン導入や薬剤調整を行い、安定した患者さんは積極的に逆紹介を行うようにしています。



専門外来のご案内 「妊娠糖尿病外来」

妊娠中の血糖コントロールによる 母体または胎児の合併症の予防

糖尿病・代謝・内分泌内科では妊娠糖尿病（※）、妊娠された糖尿病女性（糖尿病合併妊娠）、また妊娠中に糖尿病が発見された方の診療を産婦人科の先生と連携を取り、医師、看護師、栄養士と共にチームで行っています。周産期の高血糖は母体の合併症のみならず児の発育異常や流産、新生児合併症につながるため、より厳格な血糖コントロールが必要となります。食事指導やインスリン治療などにより、年間 100 例程度の妊婦さんの血糖コントロールを行っています。

※妊娠糖尿病（Gestational diabetes mellitus GDM）とは妊娠中に初めて発見または発症した、糖尿病に至っていない軽度の糖代謝異常のことで、全妊婦の 12.1%と従来の 4.1 倍に増えています。

診療内容

栄養指導	患者さん一人一人へ適切なエネルギー量や取り方、分割食療法（1日に必要なエネルギーを5~6回に分けて食べる方法）などについて、管理栄養士より個人指導を受けることができます。（別途予約が必要）
自己血糖測定	患者さんご自身で血糖測定を行うことによって、より厳格な血糖コントロールを目指すため専門の看護師より血糖測定を指導させていただいています。
外来インスリン導入	食事療法でも血糖値のコントロールが難しい患者さんに導入する場合があります。妊娠糖尿病の場合は妊娠中にインスリンを使用しても出産すれば中止にすることができます。
出産後外来	妊娠糖尿病を経験された方は、将来的に糖尿病または糖尿病予備軍になりやすいとされています。当科では出産後も適切に管理指導を行っています。

予約の手続きについて

- ◆外来日：毎週金曜日：午後（紹介予約制）
- ◆『紹介状』が必要です。医療連携室（03-3784-8400）へご連絡いただき、「妊娠糖尿病外来」のご予約をお取りください。
- ◆担当医：小橋京子(前右)、長村杏奈、田邊優希(前左)
- ◆看護師：飯野里佳(糖尿病看護認定看護師)(後右)、叶田紗友実(後中央)
- ◆管理栄養士：相原絵梨花、山崎卓磨(後左)



第7回「旗の台消化器センター地域連携フォーラム」開催のご案内

下記の日時にて第7回旗の台消化器センター地域連携フォーラムを開催致します。ご興味のある医療関係者の方々は是非ご参加ください。

日時：平成29年2月28日（火）19時30分～

場所：目黒雅叙園 2F 「舞扇の間」

会費：1,000円

講演内容：『医師会からの興味ある紹介症例について』 消化器・一般外科 助教 伊達 博三
『開業医向けの内視鏡検査、治療について』 内視鏡センター センター長 山村 冬彦
『食道癌内視鏡外科手術 20年 900症例の検討』 消化器・一般外科 助教 山下 剛史
『教室における門脈圧亢進症に対する治療戦略』 消化器内科 助教 魚住 祥二郎

問い合わせ先 医療連携室（電話：03-3784-8400）

最新機器のご案内 「呼吸器内視鏡」

肺がん、間質性肺炎、肺感染症 などの診断に有用

最新の呼吸器内視鏡検査を導入しました

内視鏡センターでは、呼吸器内視鏡を最新の EVIS LUCERA ELITE 気管支ビデオスコープ (BF-P290) を導入しました。気管支内視鏡検査 (気管支鏡検査) は、ファイバースコープという細い管を口から挿入して、気管や肺の内部を観察する検査で、病変の場所、状態、大きさなどがわかります。採取した細胞を顕微鏡で調べ、がんの有無を診断します。また、超音波内視鏡も使用できます。肺がんのほか、間質性肺炎、肺感染症などの診断に役立ち、出血している場所の確認も行います。

最新機器は、挿入部回転機能や上葉気管支へのスムーズなアプローチが可能で、大きい湾曲角度が得られることができます。また、肺や気管支は内視鏡などの異物刺激に対し、より弱く敏感ですので局所麻酔や鎮痛剤などを検査前・検査中に慎重に投与し、患者さんがなるべく苦痛を感じることをしないよう実施しています。

呼吸器センターで実施している呼吸器内視鏡検査・治療

気管支内視鏡治療では、気管支拡張や気道異物の除去、止血なども行います。呼吸器内視鏡下の診断治療が困難な場合は、CT 下肺生検を実施し、胸腔鏡を用いた手術や開胸手術などを呼吸器外科と連携し治療しています。胸部異常陰影や胸部悪性腫瘍など対象の患者さんがいらっしゃいましたら、呼吸器内科へご紹介ください。

また、上記以外に重症・難治性喘息に対し、肥厚した気道平滑筋を減らし健常者に近付ける「気管支サーモプラスチック療法」(気管支熱形成術) を導入しています。



<答えてくれたのはこの方>



呼吸器センター長
相良博典先生

糖尿病・代謝・内分泌内科「ヘルシースクールのご案内」

生活習慣を見直してみませんか？

ヘルシースクールは、「糖尿病に関する」患者さん向けの公開講座です。当日は講義だけでなく、クイズを取り入れたり、からだを動かしたりしながら学べる構成となっています。また、糖尿病内分泌内科の医師も参加し、患者さんからの様々なご質問にもお答えいたします。当院に通院されていない方も、他病院やその近くのクリニックを利用されている方をはじめ、食事や運動に興味のある方はどなたでもご参加いただけますので、ご家族をお連れしお気軽にご参加ください。

(事前予約が必要です、下記にてお申込みください)

日時：平成 29 年 **2 月 18 日 (土)** 11:00~12:30(食事編)
3 月 11 日 (土) 11:00~12:30(運動編)

場所：昭和大学病院 中央棟 7 階研修室

参加：参加費は無料、事前申し込みが必要のため

「03-5413-8922」にお問い合わせください。

(昭和大学病院ヘルシースクール事務局 一般社団法人ソーシャルユニバーシティ内)

定員：**先着 30 名迄** (持ち物：電卓、タオル、飲み物)



ヘルシースクールの様子

今月の熱血医療人

Vol.6 「NST 専門療法士」



～このコーナーでは専門資格を有している
熱血メディカルスタッフの方を紹介します～

Q. 『NST 専門療法士（栄養サポートチーム専門療法士）』とはどのような仕事をしているのか？

NST 専門療法士は、日本静脈経腸栄養学会が認定する資格で、臨床栄養学に関する知識と技能を有している者に認められます。

当院では、2005 年より全科型の NST が立ち上がり多職種による栄養サポートが行われております。NST 専門療法士は、患者の栄養状態の評価、現在の摂取栄養量の推定と過不足の判定、適正な栄養量と投与ルート（食事か経腸か経脈か）などについて他のスタッフと共に検討し、それを主治医に提言する役割を担っています。

Q. 患者さんに対してのメッセージをお願いします。



入院中はさまざまな理由で食事が食べられなくなることも少なくありません。ご自分の栄養状態は大丈夫だろうかなど不安に思うこともあると思います。そんな時は NST 専門療法士が病室に伺いますので、お気軽に医師または看護師まで声をかけてください。また、胃瘻栄養や嚥下食、退院後の食事についても相談できます。

栄養療法は病気に対する治療法の一つではありますが、QOL（生活の質）の大切な構成要素であることも忘れずに、患者さんの治療に貢献していきたいと思っております。



町田 あゆみさん

最終講義のご案内

平成 29 年 3 月末で定年退職される先生の最終講義が下記の通り開催されます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。是非ご来聴ください。

●医学部 内科学講座 循環器内科学部門

教授 小林 洋一

日程：平成 29 年 3 月 2 日（木）

時間：16:00～17:00

場所：昭和大学病院 入院棟地下 1 階 臨床講堂

※当日は誠に勝手ながら、生花の受取りは辞退させていただきます。

●医学部 形成外科学講座 形成外科学部門

教授 吉本 信也

日程：平成 29 年 3 月 24 日（金）

時間：16:30～17:30

場所：昭和大学病院 入院棟地下 1 階 臨床講堂

※当日は誠に勝手ながら、生花の受取りは辞退させていただきます。



文責：管理課

医療被ばく低減施設認定を更新しました ～放射線室～

放射線室では、放射線被ばくを適正に管理するために、診療放射線技師の職能団体である公益社団法人日本診療放射線技師会の「医療被ばく低減施設認定」を取得しました。この度、取得後5年が経過したので、更新審査を受けました。現在この「医療被ばく低減施設認定」は全国で68施設（東京都内は6施設）が取得しております。

本認定を取得することにより、適正な放射線の質と量で検査・治療が行われていること、さらに放射線管理が適正に行われていることを第三者機関に認めて頂き、全国で68施設のみ医療被ばく低減認定施設として掲げることができます。

今回、本認定を更新し、診療放射線技師へ求められる責務として、X線画像の質を担保した上での医療被ばくの更なる低減を推進し、患者さんに安心と安全を提供していきたいと考えております。



文責：放射線室

院内コンサート報告

平成28年12月17日（土）、穏やかなお天気の中、女性合唱の“エンジェルマミー”による第77回昭和大学病院院内コンサートが開催されました。“翼をください”から始まり、NHK朝ドラテーマ曲の、“にしじろ/雨のち晴レルヤ/麦の唄”で観客の心を掴み、クリスマスメドレー、ピアノ演奏、朗読とバラエティー豊かに楽しませて頂きました。最後の曲のきよしこの夜は、観客と共に聖なる歌声が会場に響き、心温まる時間でいっぱいになりました。エンジェルマミーさん、有難うございました。

患者さんからの声

♪退院が近い方、そうでない方、どちらにとっても音楽は心の潤滑油であり心の糧。

病院が音楽で満たされているのはとても良い事だと思います。

♪外に出ていないので歌声が胸に響き涙が出ました。

良い気分転換になりました。

♪音楽に触れあう事が出来てとても良かったです。

コーラスの方達にも、力と勇気をもらいました。

♪さすが10年のキャリア、お上手です。

朗読の方、声もきれい、うまいです。

♪昨日手術で明日は退院なので、コンサートに来られて良かったです。ママさんコーラスの合唱、ピアノ演奏素敵でした。有難うございます。



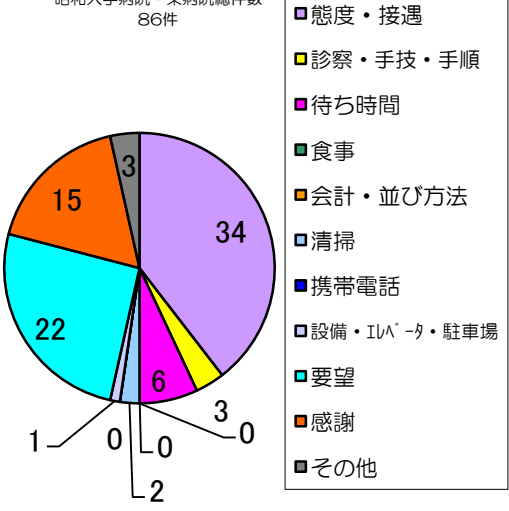
【院内コンサートの様子】

文責：管理課

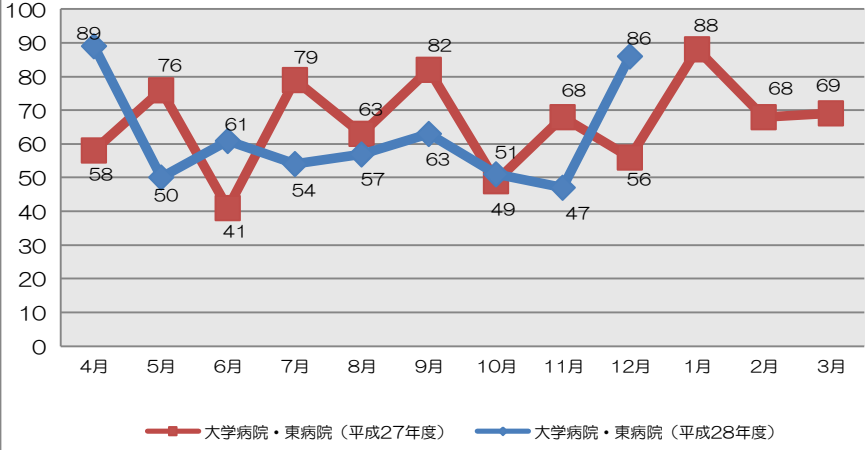
患者さんのご意見・要望

ご意見・要望	回答	回答部署
<p>他県の病院から昭和大学病院の頭頸部腫瘍センターを紹介され、手術を受けました。後遺症など心配していましたが、手術は無事成功し、その後職場復帰を果たしました。4年間苦しんでいましたが、頭頸部腫瘍センターに来て、手術できてとても感謝しています。</p>	<p>手術も無事成功し、社会復帰も果たされたとのことで我々としてもとても嬉しいです。今後もご自愛ください。</p>	<p>頭頸部腫瘍センター</p>
<p>内視鏡検査室の血圧測定器ですが、緊張しているうえに、後ろから順番待ちのひとに見られているのではないかとすると余計落ち着かなくなりますので、見えなくするなどの工夫をしてほしいと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 内視鏡検査の前に血圧測定することは、その日の体調の目安にしているため、非常に重要な要素です。 周りから見えないように仕切り等を立てると患者さんの様子を観察することができなくなり、万が一転倒されたとき等の発見が遅れる可能性が危惧されます。 そのため、測定が困難と思われる場合には検査室内で血圧測定することも可能ですので、窓口の看護師にご相談いただければと思います。 以上、ご協力の程よろしくお願い致します。</p>	<p>内視鏡センター</p>
<p>この日はいくつも検査が必要になったため、全部が終わったのが18時過ぎで、会計ができなくなりました。せめて自動支払機だけでも使えると助かります。</p>	<p>ご不便おかけして申し訳ありません。改めまして会計窓口の対応時間をご案内申し上げます。 会計窓口の時間は8:30~18:00 それ以外の時間は、救急外来の受付で会計することが可能です。 会計窓口前に、時間ごとの窓口をご案内する掲示を設置しておりますので併せてご確認願います。</p>	<p>医事課</p>

平成28年12月掲載分
ご意見・要望の内訳
昭和大学病院・東病院総件数
86件



平成28年度ご意見・要望の推移



各種お知らせ

第22回東病院院内コンサート

日時：平成29年2月24日（金） 15:00～15:30

場所：東病院3階デイルーム

出演者：東京パンフルートクラブ

曲名：クラシック・ルーマニア音楽・民謡など



〈パンフルートとは〉

木管楽器の一種で、一端が閉じられた長さ・太さの異なる数本の管を、開端をそろえて長さの順に筏状に束ねて作られた縦笛。

編集後記

夕暮れ時の昭和大学病院の正面玄関付近はブルーライトに彩られ、一種幻想的な光景となる。患者さんや職員も毎年恒例の冬の風物詩として楽しんでいる。二月は一年で最も寒い時期であるが、徐々に日が長くなってきてイルミネーションは終了となる。寒い冬の間は灯りを絶やさないと欲しいと思うのだが、それは暖かい日差しの春が近づいてきたサインとも受け取れる。降り注ぐ春の光が待ち遠しい。

平野 勉



昭和大学病院・附属東病院の理念

- 患者さん本位の医療
- 高度医療の推進
- 医療人の育成

昭和大学病院・附属東病院の基本方針

- 患者さんが受診しやすい、患者さんのQOLを重視した、質の高い医療を提供する。
- 地域医療機関との連携を推進し、特定機能病院としての医療を担う。
- 教育病院としての機能を充実して卒前・卒後の研修・実習および生涯教育を通して、質の高い医療人の育成を行う。
- 生命倫理を尊び、科学的根拠に基づいた高度な臨床研究を実施する。

ご意見・要望につきましては、メールアドレス：tayori@ofc.showa-u.ac.jp までお願いいたします。

病院広報委員会委員： 荒川 千春、磯飛 雄一、大嶽 浩司、河村 満、佐藤 久弥、白井 敦、鈴木 隆、中村 清吾、平野 勉、間部 亮仁、結城 祐磨、吉田 仁、渡邊 聡（50音順）